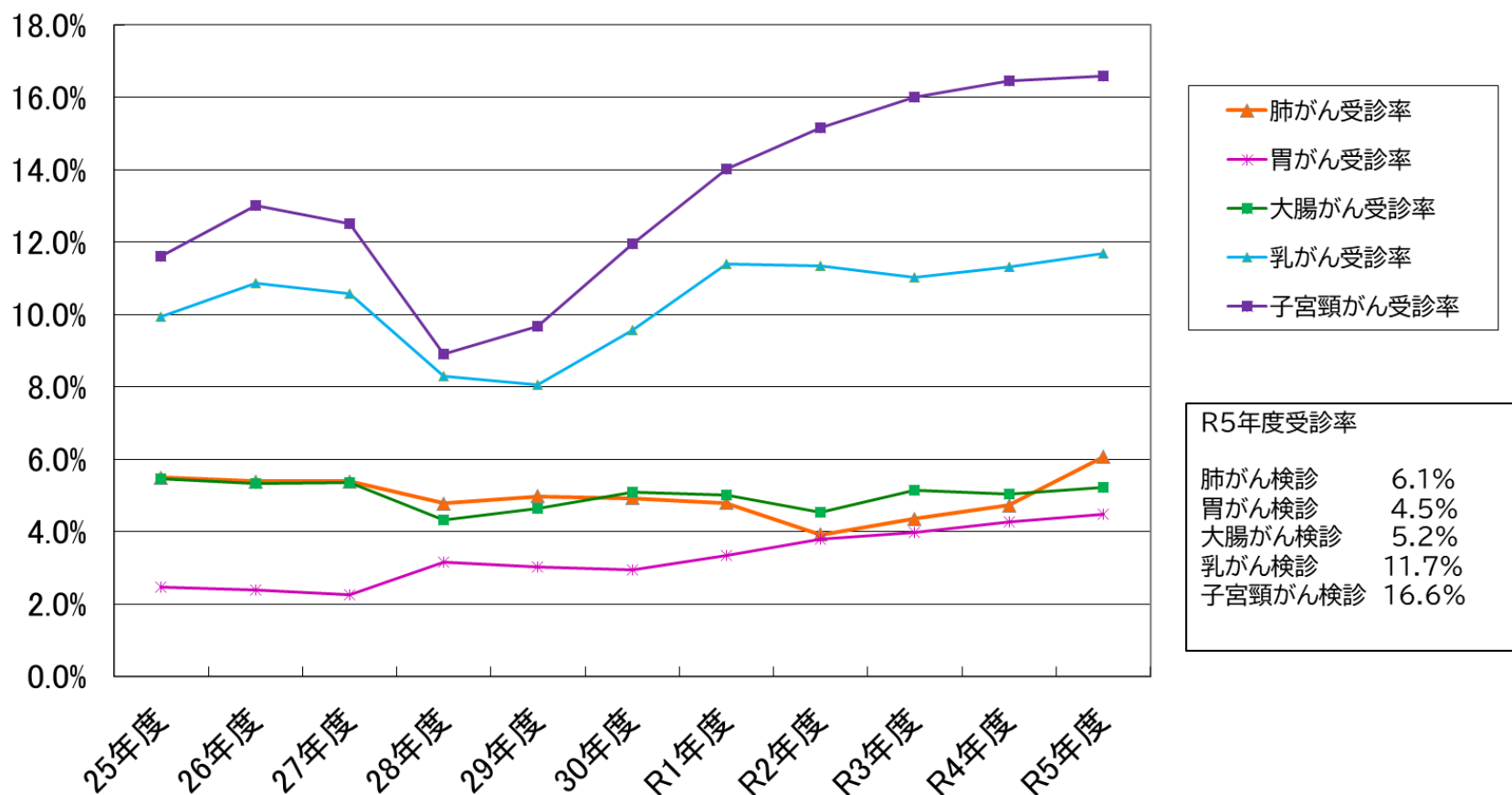


がん検診受診率向上の 取組について

令和6年10月
熊本市健康づくり推進課

1 本市のがん検診について(受診率の推移)

1-1 がん検診受診率の推移



- がん検診の受診率は、熊本地震により平成28年度に大幅に低下。
- 令和2年度の新型コロナの影響による低下も見られたが、個別受診勧奨等の取組により近年は横ばいまたは上昇傾向にある。
- 令和5年度では、個別検診を開始した肺がん検診の受診率が特に向上。

1 本市のがん検診について(受診率の向上)

1-2 受診率向上の主な取組

	開始年度	取組内容
1	H29年度	冬期における大腸がん郵送検診の導入
2	H29年度	受診勧奨の拡充(がんのハイリスク世代等)
3	H30年度	胃がん検診における内視鏡検査導入
4	R1年度	70歳以上のがん検診自己負担金無料化
5	R3年度	胃がんリスク検査の導入
6	R3年度	大腸がん郵送検診の期間拡大(11月～2月⇒10月～3月)
7	R4年度	肺がん検診における個別検診の導入
8	R5年度	乳がん検診受診勧奨の拡充(～50代⇒～60代)
9	R6年度	乳・子宮頸がん無料クーポン券利用の再勧奨実施

各がん検診の主な受診率向上策について

2肺がん検診:個別検診

3胃がん検診:内視鏡検査

4大腸がん検診:郵送検診

5乳がん・子宮頸がん検診:個別受診勧奨

2 肺がん検診について(個別検診の概要)

2-1 肺がん個別検診の概要

- 開始日 令和5年2月1日
 - 検診対象者 年度内に40歳以上になる方
 - 実施医療機関 市内または近隣の医療機関 約130か所
 - 検査内容 胸部エックス線検査(必要に応じて喀痰細胞診)
 - 自己負担金 500円(喀痰細胞診が必要な場合は別途500円)
- ※70歳以上の方、市民税非課税世帯の方、生活保護受給世帯の方は
証明書の提示で無料
- 受診方法 実施医療機関へ直接電話予約

**肺がん検診が身近な医療機関で受診できるようになり、便利になりました！
年に1回ぜひ受診してください！**

熊本市医師会理事（緒方消化器内科） 緒方一朗先生からのコメント

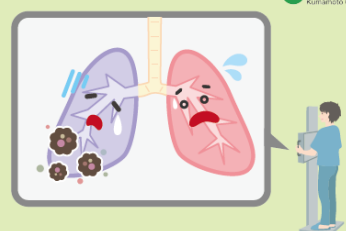


肺がんは日本人のがんによる死亡原因第1位のがんです。喫煙との関係が非常に深いんですが、たばこを吸わない人でも発症することがあります。肺がんは当初自覚症状が出にくい場合が多く、症状が出てからでは予後が悪い場合が多いと言われています。40歳以上の方は、1年に1回検診を受けることが大切です。

令和5年2月から熊本市内の多くの病院や診療所でも、熊本市の肺がん検診を受けることができるようになりました。特定健診をはじめ、大腸がん検診や胃がんの内視鏡検診なども個別に医療機関で受診できるようになっています。同時に受診することで、更に利便性が上がると思います。市が実施するがん検診は、厚生労働省の指針に基づいて行われており、有効性の確立した検診方法です。自分や周りの大切な人のためにも、検診を習慣づけていきましょう。

市政だより4月号折込版

熊本市
Kumamoto City



**肺がん・結核検診が
指定医療機関で受診できます**

**当院で受診
いただけます**

※検診をご希望の方は受付へ
お申し込ください。

■対 象：年度内に40歳以上になる熊本市民

■検診内容：問診・胸部エックス線検査
(必要に応じて喀痰細胞診)

■料 金：500円(喀痰細胞診が必要な方は別途500円)
【70歳以上の方、市民税非課税世帯の方、生活保護受給世帯の方は無料】

肺がん・結核検診について

肺がんは日本人のがんによる死亡原因第1位で、喫煙との関係が非常に深い病気ですが、たばこを吸わない人でも発症することがあります。肺がんは当初自覚症状が出にくい場合が多く、症状が出てからでは予後が悪い場合が多いと言われています。40歳以上の方は、1年に1回検診を受けることが大切です。

令和5年2月から熊本市内の多くの病院や診療所でも、熊本市の肺がん検診を受けることができるようになりました。特定健診をはじめ、大腸がん検診や胃がんの内視鏡検診なども個別に医療機関で受診できるようになっています。同時に受診することで、更に利便性が上がると思います。市が実施するがん検診は、厚生労働省の指針に基づいて行われており、有効性の確立した検診方法です。自分や周りの大切な人のためにも、検診を習慣づけていきましょう。

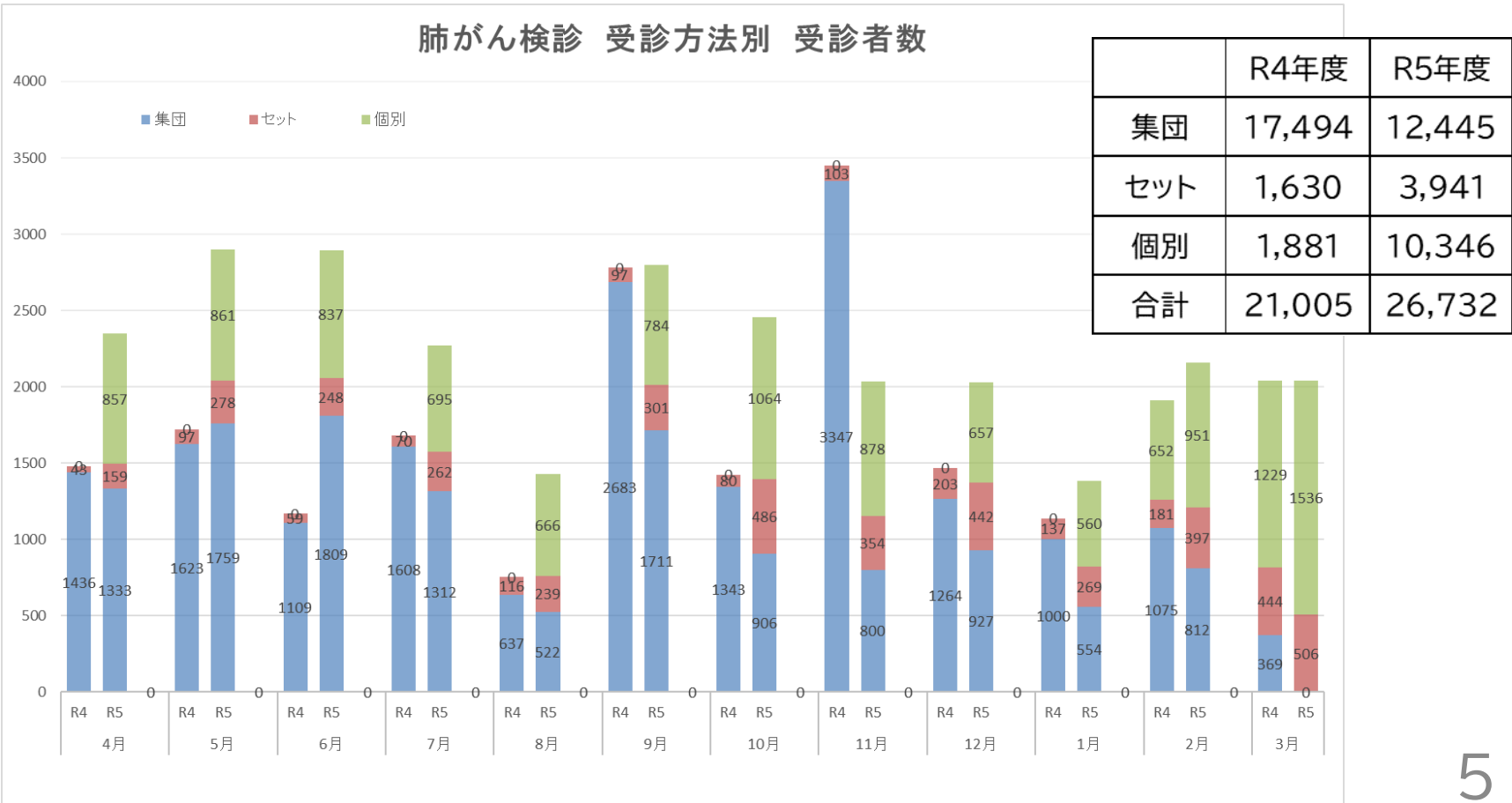
お問い合わせ
●熊本市コールセンターひこまるコール TEL 096-334-1500(受付時間：午前9時～午後5時)
●熊本市健康づくり推進課 TEL 096-361-2145
※指定医療機関など詳しくは、熊本市ホームページへ 熊本市 がん検診 検索



2 肺がん検診について(個別検診の受診者数)

2-2 受診者数の推移

- 新たに開始した個別検診の受診が伸びたことで、肺がん検診全体の受診者数増につながっている。
 - セット検診の受診者数は2.4倍に増加。
 - 集団検診の受診者数は約30%減少。
- ※巡回車による集団検診をR5年度から各校区1回の巡回に変更

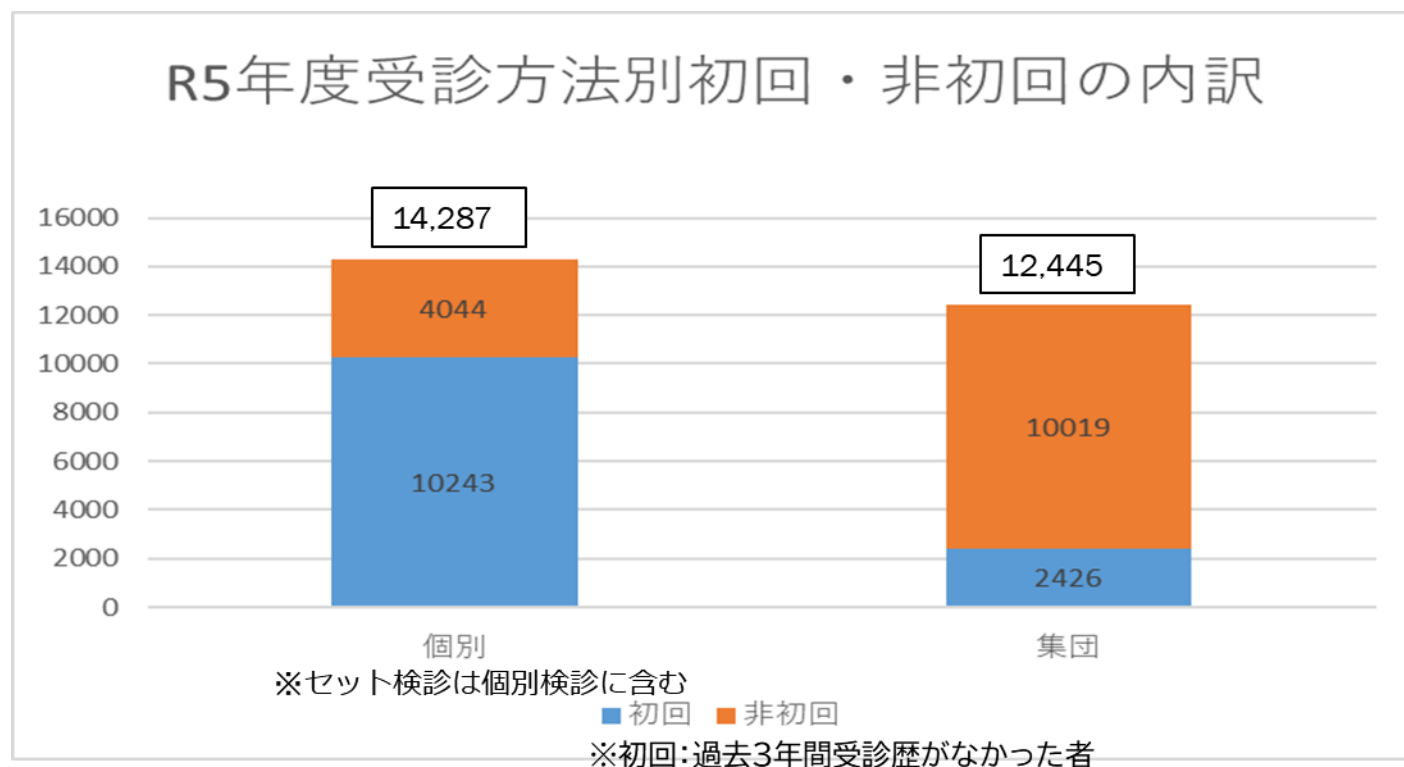


2 肺がん検診について(個別検診の受診状況)

2-3 受診者の傾向

○受診方法(個別検診・集団検診)毎に受診者を分析すると、個別検診初回受診者が約7割を占め、これまで市の検診を受診していなかった新規の方の受診につながることができた。

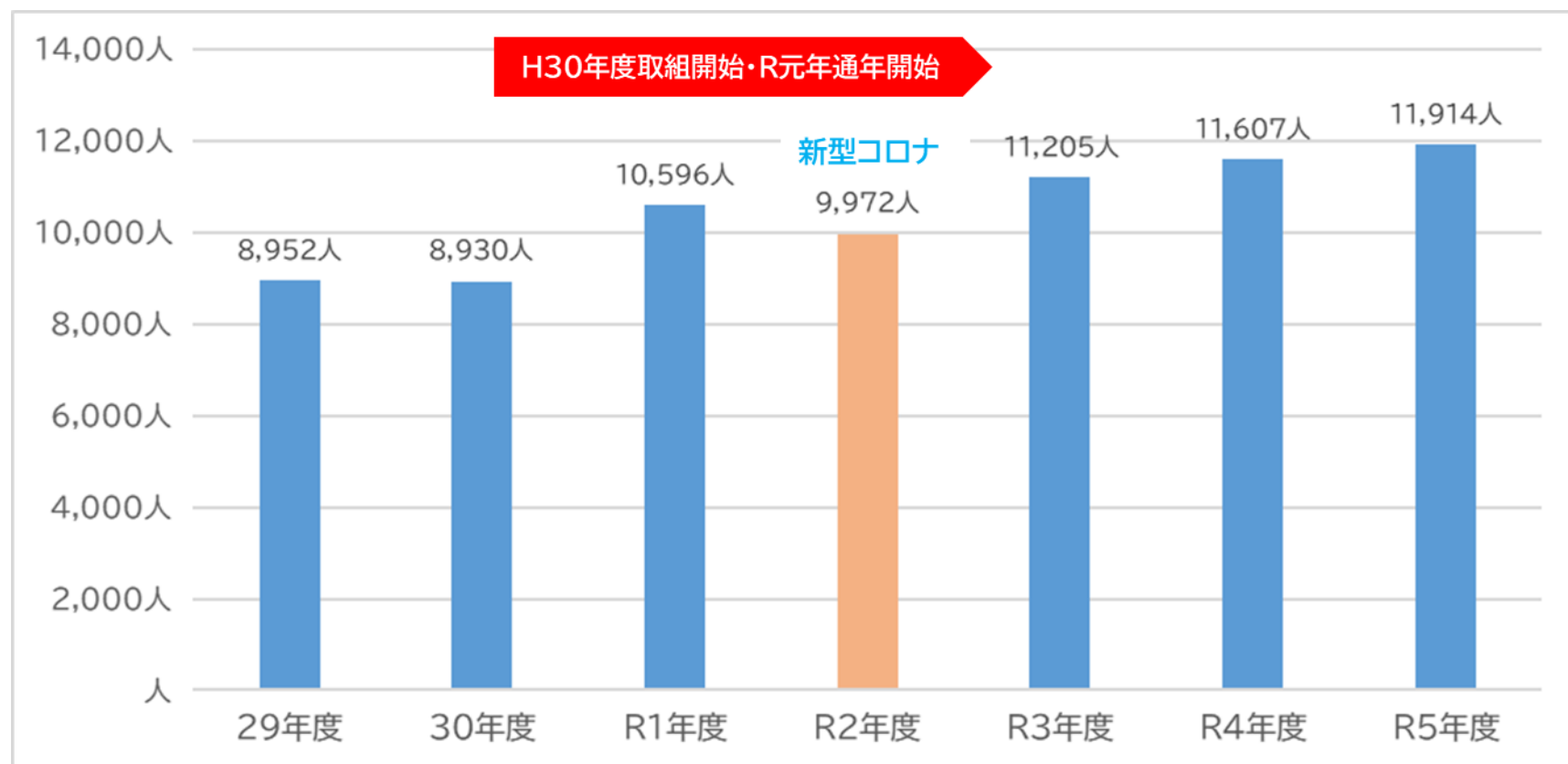
○引き続き、肺がん検診の受診とともに特定健診・胃がん・大腸がん検診等とセットで受診いただけるよう周知していく。



3 胃がん検診について(内視鏡検査の導入状況)

3-1 胃がん検診における内視鏡検査導入(H30年度～)

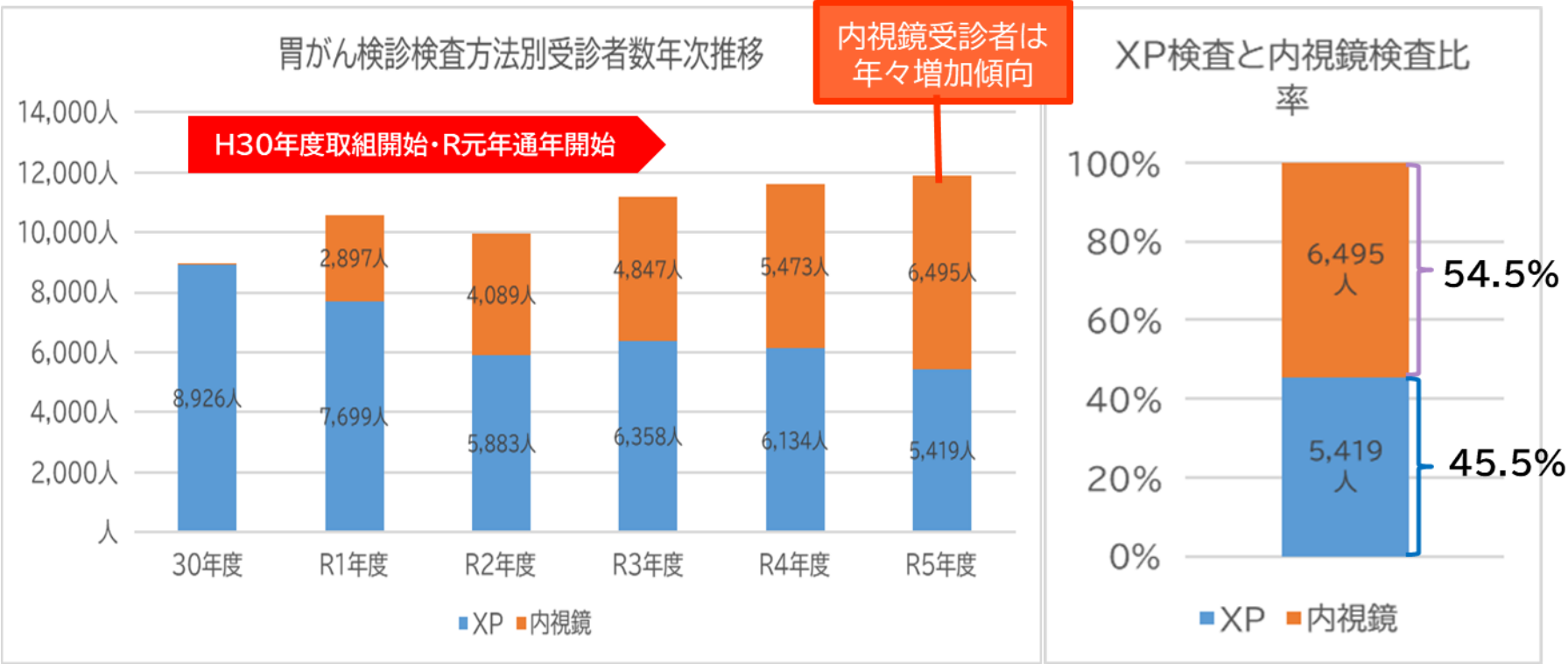
○胃がん検診の受診者数を年次比較では平成30年度までは横ばい傾向であったが、胃内視鏡検査本格導入後の令和元年度以降は増加した。令和2年度はコロナ禍の影響もあり減少したが、R3年度以降は再び増加傾向に転じている。



3 胃がん検診について(内視鏡検査の受診状況)

3-2 胃がん検診内視鏡検査の受診傾向について

○胃がん検診内視鏡検査を開始した平成30年以降、内視鏡検査の受診者はコロナ禍にあっても、増加を続けており、令和5年度には胃がん検診受診者全体の54.5%を占め、初めてバリウム検査(XP)の受診者数を超えた。

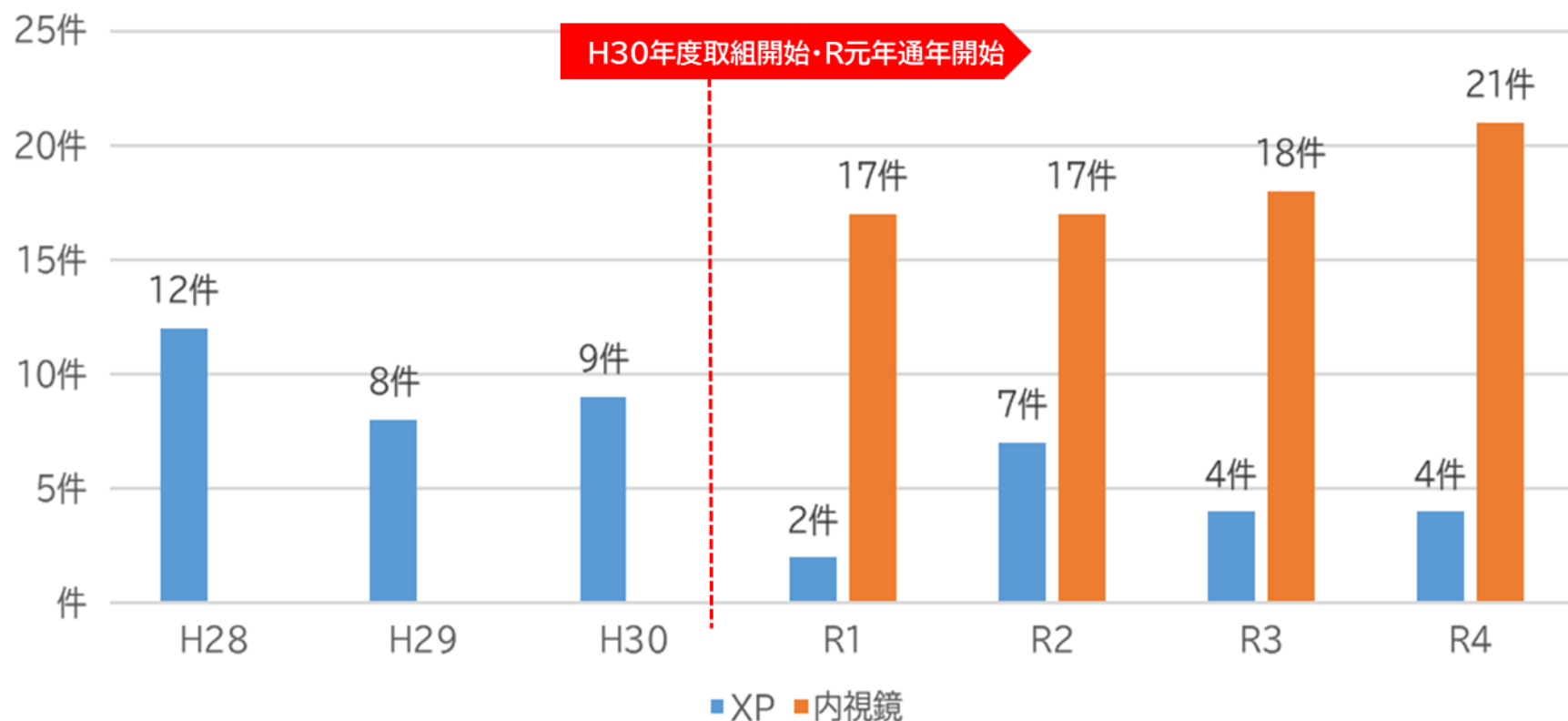


3 胃がん検診について(内視鏡検査導入後の状況)

3-3 胃がん検診検査方法別のがん発見者数について

○胃がん検診のエックス線検査、内視鏡検査ごとのがんの発見者数を比較すると明らかに内視鏡検査による受診者数が多い状況にある。

胃がん検診検査方法別がん発見率



3 胃がん検診について(内視鏡検査導入後の状況)

3-4 胃がん検診によるがん発見者数・早期がん発見率について

○胃がん検診内視鏡検査を通年開始した令和元年度以降、胃がん発見者数、早期がん発見数は増加傾向であり、早期がん発見率も高くなっている。

胃がん発見率と早期がん発見率

	がん発見者数					早期がん発見者数					早期 発見率
	内視鏡検査		胃部エックス線検査		合計	内視鏡検査		胃部エックス線検査		合計	
	男	女	男	女		男	女	男	女		
H29			4	4	8			1	1	2	25.0%
H30	0	0	6	3	9	0	0	4	2	6	66.7%
R1	13	4	1	1	19	10	3	0	1	14	73.7%
R2	10	7	6	1	24	9	4	4	1	18	75.0%
R3	10	8	4	0	22	8	7	2	0	17	77.3%
R4	13	8	3	1	25	10	7	3	1	21	84.0%

※「早期がん発見数」は「がん発見数」のうち数

3 胃がん検診について(胃がんリスク検査)

3-5 胃がんリスク検査の概要

○ピロリ菌は、胃潰瘍・十二指腸潰瘍・慢性萎縮性胃炎・胃がんの発生と深い関係のある菌であり、検査によりピロリ菌の有無を調べることで、胃がんになる危険性を判定する。

開始日:令和3年10月1日

実施医療機関:市内または近隣の医療機関 約250か所

対象者:年度内に40歳～49歳になる方

検査内容:採血による血液検査

	受診者数	うち陽性者数 ()内は陽性者の割合
令和3年度	729人	145人 (19.9%)
令和4年度	684人	110人 (16.1%)
令和5年度	1,028人	173人 (16.8%)



4 大腸がん検診について(郵送検診の導入状況)

4-1 大腸がん郵送検診の取組について

H29年度 大腸がん郵送検診開始

H30年度 回覧版(約3万枚)による広報(~R1まで)

R2年度 40・50・60歳の市民への個別受診勧奨(R5約29,000人)

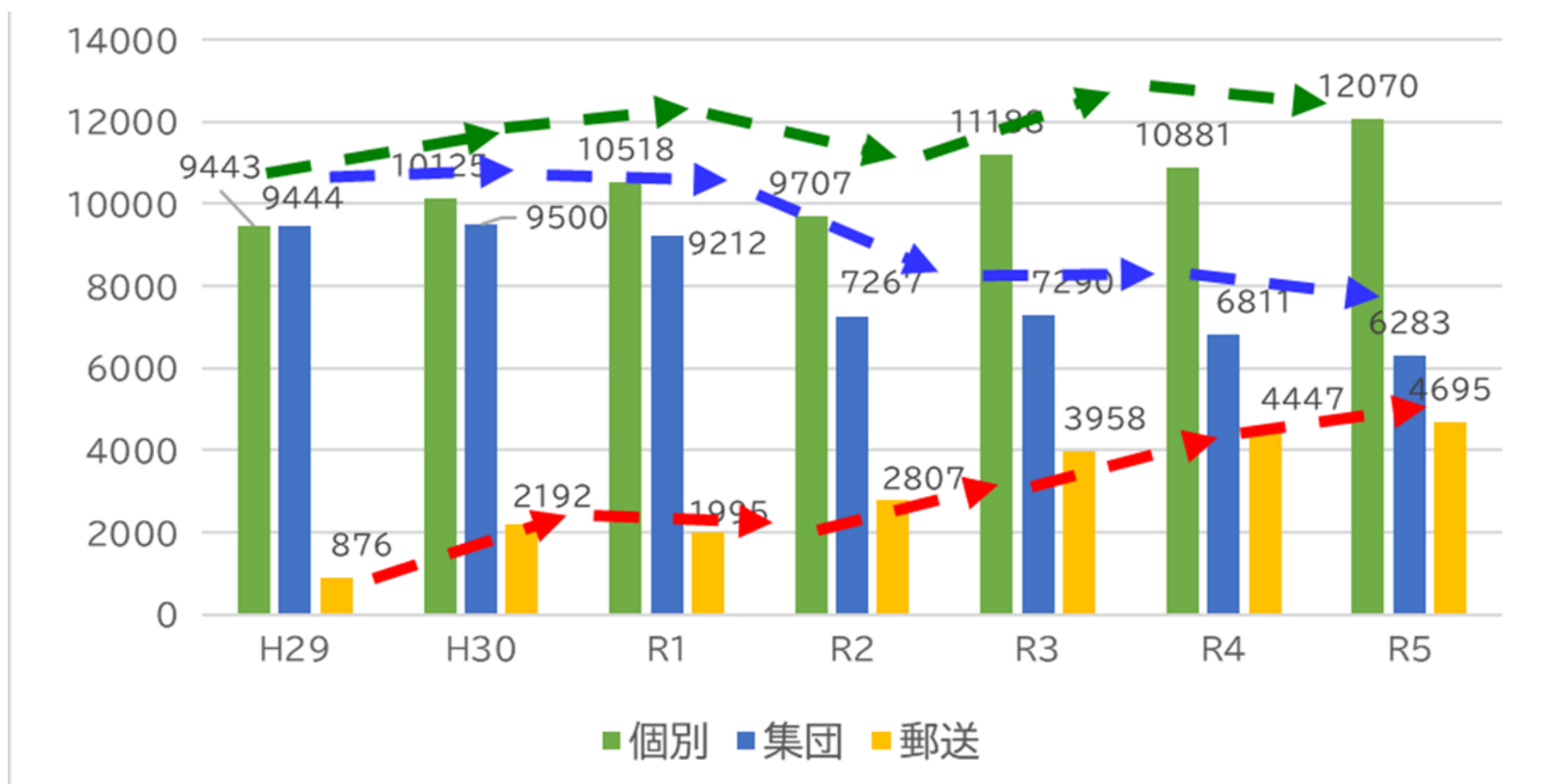
R3年度~ 前年度に郵送検診を受診者した方へキット送付
(R3約2,800人、R4約4,000人、R5約4,500人)



4 大腸がん検診について(郵送検診導入後の状況)

4-2 がん検診受診者数の内訳

○大腸がん検診全体の受診者数については、コロナによる受診控えもありR2年度にいったん減少したものの、自宅にしながら検査できる郵送検診は コロナ禍においても順調に増加しており、R5年度は開始年度(H29年度)の約5倍にあたる4,695名が受診した。

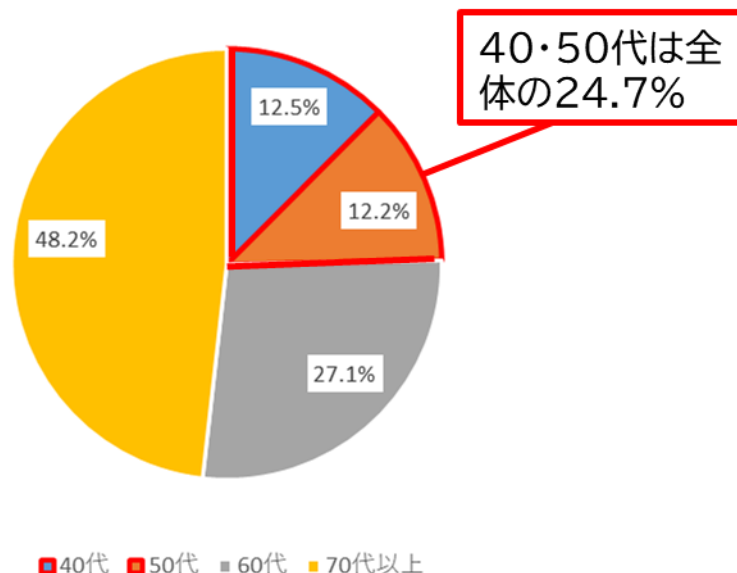


4 大腸がん検診について(郵送検診導入後の状況)

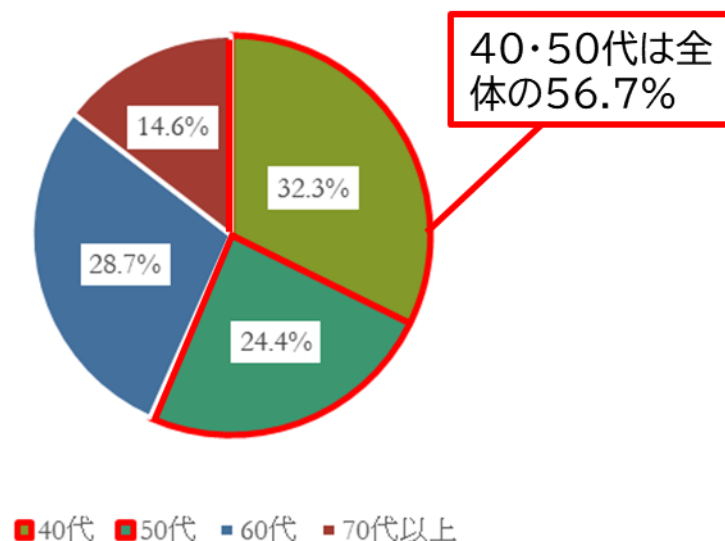
4-3 郵送検診の受診傾向について

○大腸がん検診全体で見ると、比較的若い40・50代の受診者は全体の25%にとどまるが、郵送検診では約半数を占め、働き盛り・子育て世代の受診につながっている。また、アンケート(※)によると郵送検診受診者のうち約半数は、前年度申込者に自動送付された検査キットにより受診したと回答している。 ※R5年度郵送検診受診者へのアンケート

がん検診受診者全体の年代別内訳



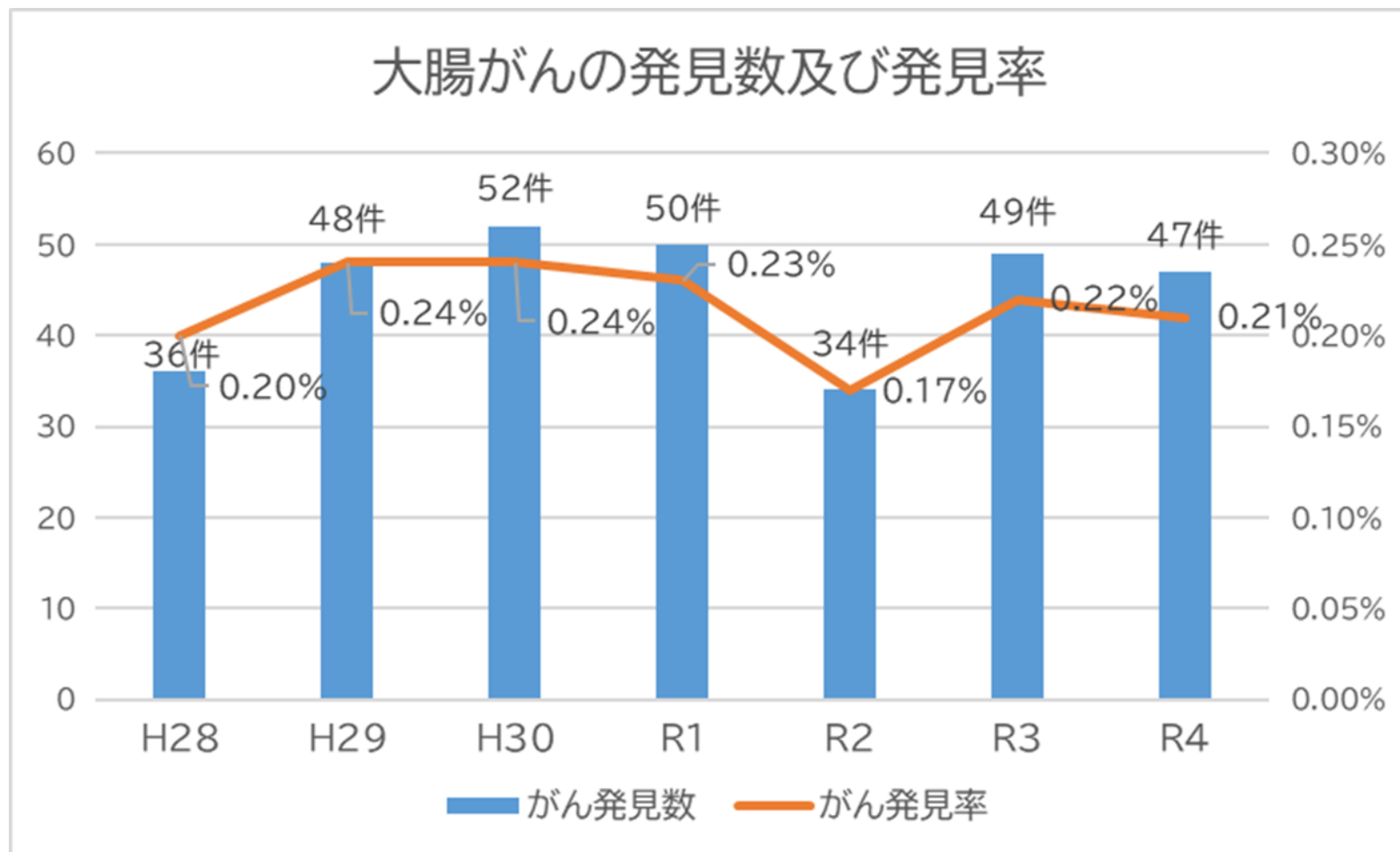
郵送検診受診者の年代別内訳



4 大腸がん検診について(郵送検診導入後の状況)

4-4 大腸がん検診におけるがん発見率について

○大腸がんの発見数は地震やコロナ禍の影響を受けた年を除き、毎年50件ほどで推移している。



5 乳がん・子宮頸がん検診について(個別受診勧奨の実施)

5-1 受診勧奨の取組(がん検診ハイリスク者など)(H29年度～)

- 罹患率の高い世代(子宮頸がん:20～30代、乳がん+子宮頸がん:40～60代)の女性に対し受診勧奨圧着はがきで検診内容等を分かりやすく伝える個別受診勧奨を実施
- R6年度から無料クーポン再勧奨を再開

受診時勧奨の拡充状況								
受診勧奨区分	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
一定年齢到達者								
1 退職者世代(62、66、68、70歳)	31,000人	29,500人	39,400人	38,100人	37,600人	36,400人	35,900人	36,000人
2 節目年齢(40・46・50歳)	31,000人							
3 節目年齢(40・50・60歳)		29,000人	28,600人	28,000人	27,900人	28,800人	29,700人	29,200人
4 無料クーポン(子宮がん:21歳)	3,700人	3,800人	3,700人	3,600人	3,800人	3,700人	3,700人	3,600人
5 無料クーポン(乳がん:41歳)	5,200人	5,200人	5,100人	5,000人	4,700人	4,800人	4,600人	4,800人
6 無料クーポン再勧奨(子宮がん:21歳)	3,700人	3,800人	3,700人	3,600人				3,600人
7 無料クーポン再勧奨(乳がん:41歳)	5,200人	5,200人	5,100人	5,000人				4,800人
8 胃がんリスク検査対象者(41・45・49歳)					30,700人	30,700人	29,900人	29,700人
ハイリスク層								
1 熊本地震で受診機会を逸した者	33,000人							
2 子宮頸がんハイリスク層(20・26・30・36歳)	17,000人							
3 乳がんハイリスク層(42～48歳、52～58歳)		40,300人	41,700人	40,500人	40,600人	40,100人	40,900人	39,800人
4 子宮頸がんハイリスク層(20～38歳)		41,100人	40,800人	40,000人	40,000人	39,000人	38,100人	38,000人
5 次年度乳がんハイリスク層(42～48歳、52～58歳)		41,700人	40,900人	41,600人				
6 次年度子宮頸がんハイリスク層(20～38歳)		41,000人	40,400人	39,600人				
7 次年度乳がんハイリスク層(42～58歳、R5年度から～68歳)					51,600人	51,500人	73,700人	74,600人
8 次年度子宮頸がんハイリスク層(20～38歳)					39,400人	38,300人	38,000人	37,500人
9 郵送検診前年度受診者キット送付					2,000人	4,300人	4,400人	4,700人
合 計	129,800人	240,600人	249,400人	245,000人	276,300人	273,300人	298,900人	306,300人
拡充割合(平成28年度比)	139%	342%	358%	350%	408%	402%	449%	463%

※熊本市がん検診受診勧奨に伴う印刷物の作成及び封入封緘等業務委託仕様書等による参考値

5 乳がん・子宮頸がん検診について(個別受診勧奨の勧奨・再勧奨)

受診勧奨 前年度末(R6.3月末)

次年度乳がん検診対象者へ受診勧奨を実施

(子宮頸がん検診もセットで受診するよう案内)

対象者:40～68歳の女性 約75,000人

未受診者への再勧奨 当該年度中 (R6.9月)

当該年度乳・子宮頸ハイリスク対象者受診再勧奨

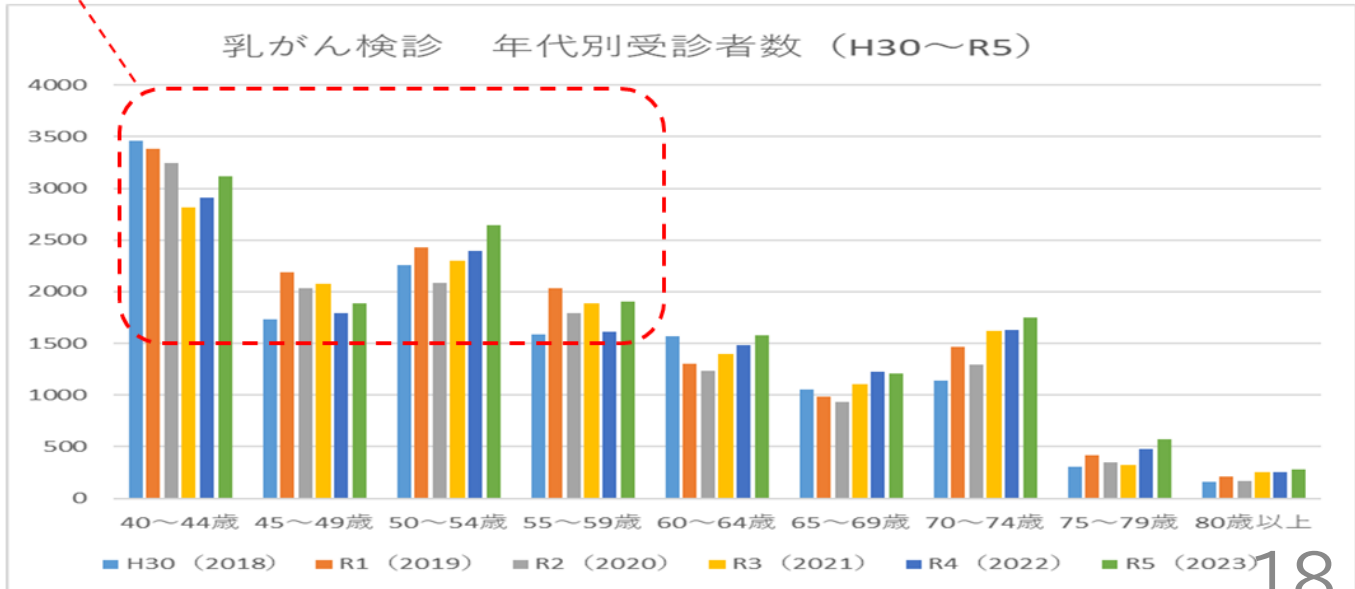
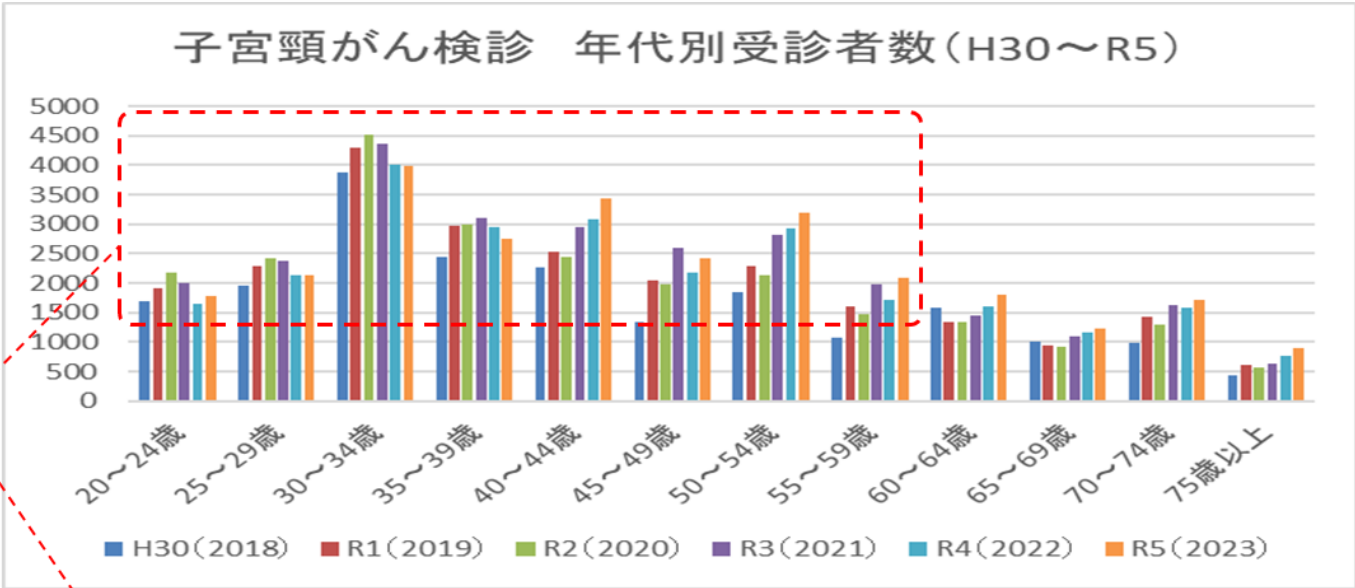
受診履歴から未受診者を抽出し、再度受診を促す

対象者:42～48歳、52～58歳の女性 約40,000人

5 乳がん・子宮頸がん検診について(個別受診勧奨後の状況)

5-2 子宮頸がん・乳がん検診年齢階層別受診者数年次比較

ハイリスク者への
個別勧奨を行った
対象年齢階層では、
受診者数が増加し
ており、受診勧奨の
効果がわかる。

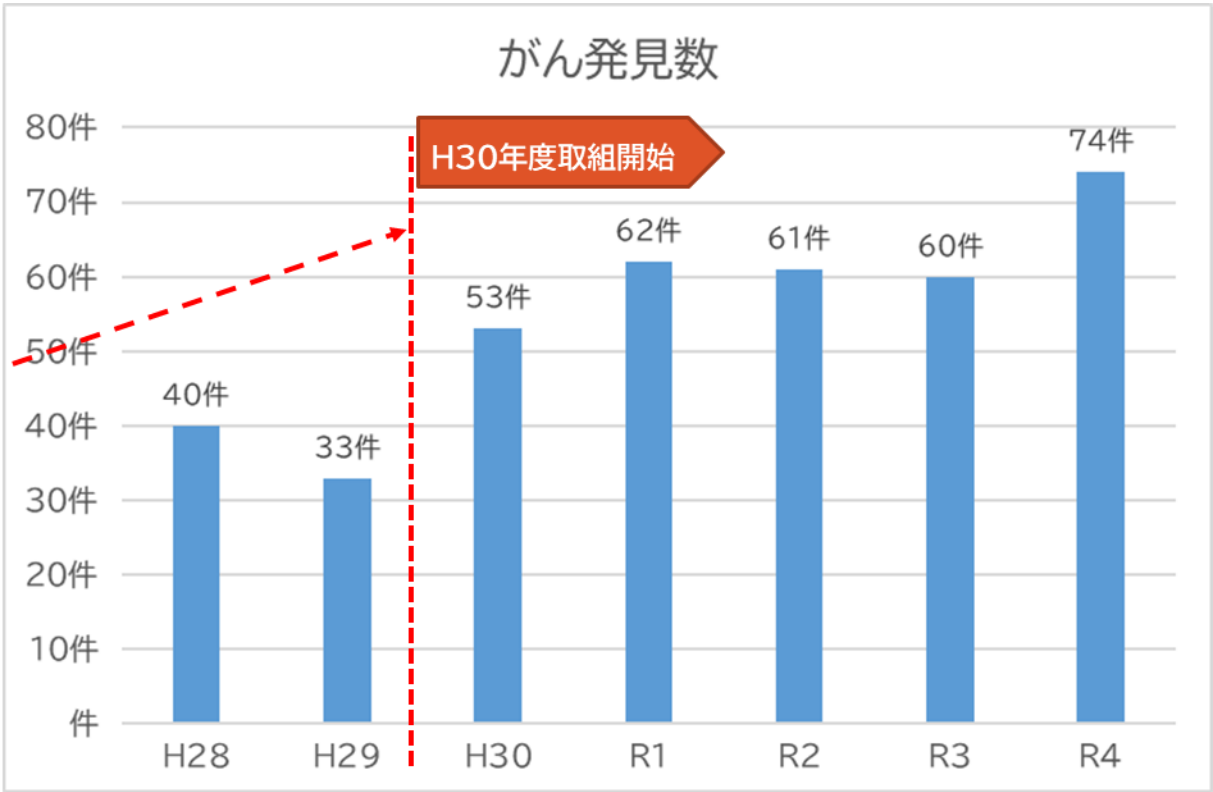


※60代への受診勧奨は
R6年度対象者分
(R6. 3月発送) から開始

5 乳がん・子宮頸がん検診について(個別受診勧奨後の状況)

5-3 乳がん検診によるがん発見数推移

個別受診勧奨の実施に伴い、受診率が上昇しているが、受診率と比例し、がん発見数も増加している。



	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
がん発見数	40件	33件	53件	62件	61件	60件	74件
早期がん発見数	18件	19件	11件	23件	19件	10件	53件
乳がん検診受診者数	9,287人	10,199人	13,282人	14,403人	13,137人	13,783人	13,789人

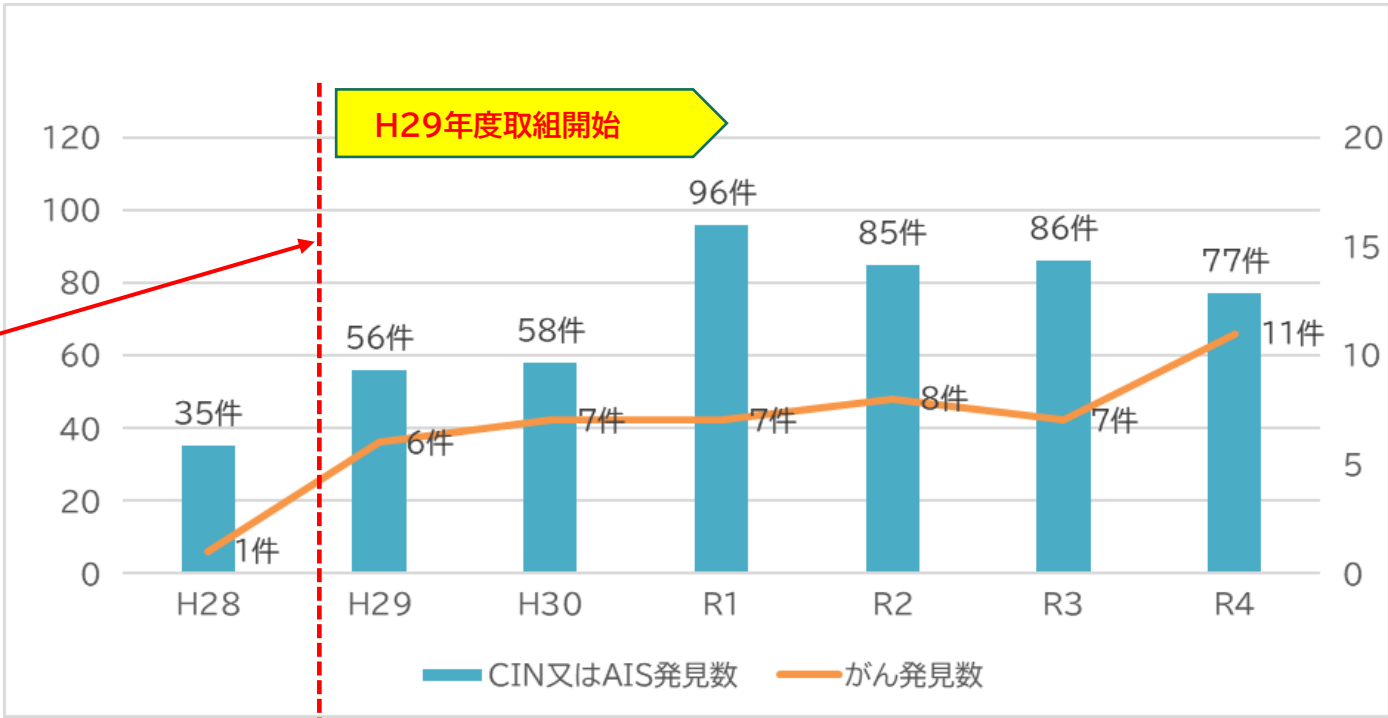
※「早期がん発見数」は「がん発見数」のうち数

出典：地域保健・健康増進事業報告

5 乳がん・子宮頸がん検診について(個別受診勧奨後の状況)

5-4 子宮頸がん検診によるがん・前がん病変発見数推移

個別受診勧奨の実施に伴い、受診者数が増加傾向にあるが、受診者数増に合わせ、がん発見数、前がん病変も増加傾向にある。



年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
がん発見数	1件	6件	7件	7件	8件	7件	11件
CIN又はAIS発見数	35件	56件	58件	96件	85件	86件	77件
子宮頸がん検診受診者数	13,095人	17,949人	20,534人	24,275人	24,258人	27,009人	25,747人

※CIN3・AIS・・・子宮頸がんになる前の状態(前がん病変)。前がん病変の段階で発見し治療することにより、子宮頸がんへの進行を防ぐことができる。

出典：地域保健・健康増進事業報告

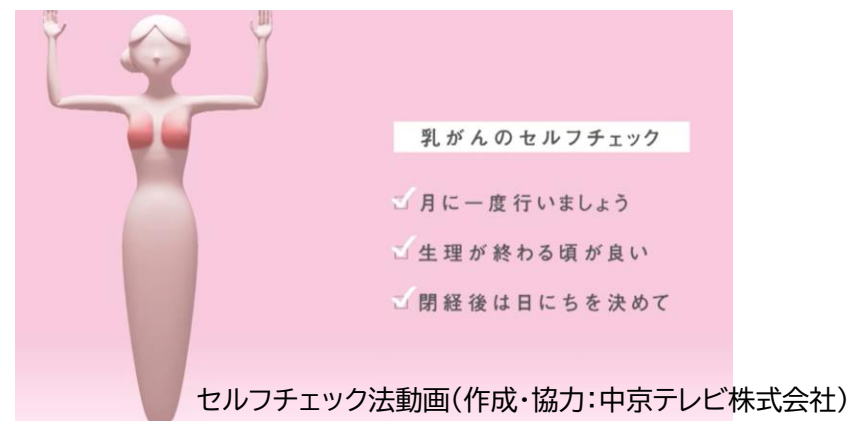
5 乳がん・子宮頸がん検診について(がんの特化した取組)

5-5 乳がんセルフチェックの普及について

○乳がんは自分で見つけれられる可能性のあるがんであり、乳がんの早期発見のためには月に一度のセルフチェック(自己触診)を習慣づけることが大切である。令和3年度から、乳がん検診の受診者には、医療機関においてセルフチェックの動画放映、リーフレットの配布を行い、セルフチェックの啓発を行っている。



受診者に配布するセルフチェックリーフレット



医療機関における放映の様子

5 乳がん・子宮頸がん検診について(がんに特化した取組)

5-6 子宮頸がん検診動画について

○子宮頸がんは、20～30歳代女性の罹患率が高いが、初期にはほとんど自覚症状がないため2年ごとの定期的な受診が必要である。中外製薬株式会社と熊本市では、熊本市がん対策企業等連携協定に基づき、子宮頸がんについて専門医の先生方が分かりやすく解説する動画を作成し、市ホームページやLINE等で周知している。

To: 熊本市にお住まいの皆様

子宮頸がんは珍しい病気ではありません。正しい知識をもって予防しましょう。



熊本大学大学院生命科学研究部産科婦人科学講座教授
近藤 英治先生



熊本大学大学院生命科学研究部産科婦人科学講座助教
今村 裕子先生



フォーシーズンズレディースクリニック院長
田畑 愛先生

デジタル市民公開講座

おしえて子宮頸がん検診のコト

こんなギモンが約10分で解消！

子宮頸がんは、近年若い女性がかかることが多いがんとして問題になっているがんです。一方で、早期発見できれば治療しやすいがんとしても知られていて、定期的に検診を受けることが大切です。

- 子宮頸がんはなぜ起こるの？
- 子宮頸がんを予防するためには？
- 子宮頸がん検診では、どんなことをするの？
- 子宮頸がん検診を受けるためには？

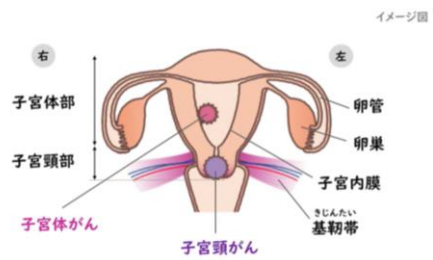


熊本県/熊本市
デジタル市民公開講座

「おしえて子宮頸がん検診のコト」

熊本大学大学院生命科学研究部 産科婦人科学講座 教授 近藤 英治 先生
熊本大学大学院生命科学研究部 産科婦人科学講座 助教 今村 裕子 先生
フォーシーズンズレディースクリニック 院長 田畑 愛 先生

子宮頸がんとは



1) 国立がん研究センター がん情報サービス 子宮頸がん
https://ganjoho.jp/public/cancer/cervix_cancer/index.html (2023年7月参照)
2) 公益財団法人 日本産科婦人科学会ホームページ (2023年7月参照)

子宮頸がん検診啓発動画の一部

6 本市のがん検診について(これまでの取組から見える課題等)

受診率の更なる向上に向けて

○肺がん検診・胃がん検診:かかりつけの病院等を市民それぞれの都合に合わせて予約して受診のできる個別検診については受診率が向上しているが、巡回検診については基本的に予約不要ではあるものの決められた時間場所での受診となることもあり、受診率が減少しつつある傾向。

○大腸がん検診:郵送検診を導入して少しずつ受診率は向上しているものの、今後大幅な受診率の向上の見込みはない。比較的死亡率の高いがんであるため、受診率を向上させるとともに死亡率を減少させることが必要。

○乳がん検診:個別勧奨の効果もあり一定程度受診率は向上している。ただし今後さらに受診率を向上させることについて要検討。

○子宮頸がん検診:個別勧奨の効果もあり一定程度受診率は向上しているものの、無料クーポンの利用率も含めて20代の受診率が比較的低い傾向にあるため、受診率を向上させることについて要検討。